

# 連盟会報

発行日：2014年(平成26年)8月29日

…◆第33号◆…

発行：NPO法人 日本抜刀道連盟  
企画・構成・編集：広報部  
…事務局…

〒212-0012 川崎市幸区中幸町 1-17  
☎：044-555-8660 FAX：044-223-7544

…炎天猛暑の中…神奈川県立武道館に走る熱気…

## 平成26年度 事業計画 本部主催『制定刀法・審判 伝達講習会』盛大に開かれる

梅雨明け炎天猛暑の2014年(平成26年)7月27日(日曜)。連盟事業計画に基づく本部主催による「制定刀法・審判 伝達講習会」が、神奈川県立武道館大剣道場で盛大に開催された。

当日は、関東地区の支部を中心に“福岡・高知・山形・新潟・茨城・千葉・埼玉”と、各県支部の精鋭選手62名が参加した。

講習会は“開会”に先立ち、大江連盟会長を代行して、中世古副会長から炎天猛暑の中、支部を代表して遠路参加した選手諸兄への激励の言葉に添え…、無念にもこの真夏にかけて、突然にご逝去された『高知興武館支部：樋口 功 範士・埼玉尚武館：富田憲介 支部長』の“お二人の在りし日のお姿を偲び”全員で黙祷を捧げご冥福を祈った…。

道場内は熱気が蒸す中、連盟組織活動に貢献された、長老先輩格の中北祐嗣 参与・森本武久 参与そして、小林大二 前広報部長も声援に駆けつけ、本講習会の推移を力強く見守ってくれていた…。



“人生一期一会” 剣の道を志し連盟の次代を継ぐ精鋭なる現代の剣士

◆記念集合写真提供◆

連盟本部写真家：保泉 正夫 氏

### □ 猛暑の中…孤軍奮闘する…本部講師陣 □

…《制定刀法》座学/実技講習 …  
中世古勝司・大塚光男・菅野 茂

…《審判》座学/実技講習 …  
中島正夫・金子 翼・小杉耐三・太田丈夫

《スタッフ》

佐藤敬子・松浦健城・堀内城夫

…◆連盟の将来を担う…各県支部から参加した精鋭選手◆…

◆山形支部：遠藤 仁・佐藤淳一・岩崎 進 ◆埼玉：深川哲雄・木橋忠雄 ◆笠間洗心館(茨城)：太田丈夫  
・浦井一彦 ◆土成会支部(千葉)：堀内城夫 ◆葵心会(茨城)：佐藤善郎・下川辺朗 ◆東京英信会：中北祐嗣  
・藤田 僚・成田英右・大塚晋二・岡本英之・太田敏夫 ◆剣誠会(茨城)：藤田久男 ◆志操館(千葉)：金子  
翼 ◆埼玉武蔵会：平川政博・治部 明・猪膝武士 ◆聖心塾：赤星進一・上原輝明・稲葉照雄 ◆秩父興  
心会：野口常男 ◆秩父：保泉正夫 ◆尚武館(埼玉)：小林克巳・佐藤 勉・城和広貴 ◆千葉支部：小林  
大二・山口達弘・柴田輝久・根本 完 ◆英信館(栃)：山口 博・宮本光三 ◆忠勇会(諫)：松浦健成・  
西原彩子 ◆心武会：井上康司 ◆八千代(千葉)：藤原義彦・藤原弘通・岩澤和也 ◆福岡支部：橋本 一  
◆新潟支部：小杉耐三・ユーリーステパノフ ◆鎌倉支部：糸澤良全・金子薫・小林昭夫・斎藤亮一  
・鈴木洋一郎・横山慎平 ◆川崎支部：大塚光男・松井弘・森本武久・佐藤敬子・富川 仁・桑原 実

## ◆制定刀法講習◆

■伝達講習会は“開会”に先立ち、中世古副会長の、選手諸兄への“激励挨拶”に続き、ご逝去された高知 興武館支部 樋口 功 範士 富田 埼玉 尚武館支部長のご冥福を祈り“黙祷”を捧げ、国旗拝礼。猛暑の中、心新たに緊張感をもって講習に入った…。



挨拶する中世古副会長と  
…講師陣…

菅 大	写 真	中 中	金 小	太 田	↑ (写真上(右から))
野 塚	真 下	島 世	杉 杉	小 杉	
茂 光	(右から)	正 勝	翼 耐	丈 夫	
教 範	↓	夫 司	三 三	範 士	
士 士		範 士	範 士	範 士	



■制定刀法研修は、連盟“教本”に基づき、講師：大塚光男範士が、抜刀道を修練する上での心得と共に、制定10本の“刀法所作の留意点”の解説を教本に基づき忠実にいき、講師：菅野茂教士が具体的な“所作の動き”を通し“修練留意点”を明確にしつつ“実践演武”を行い模範を示した…。

また、うだる猛暑の道場では、参加者全員による気合の入った“素振り・刀法実技”を修練し道場内に籠もる熱気を吹き飛ばした…。



↑  
▼ 刀法所作の解説をする大塚光男 範士(右)とリーダーシップを発揮する菅野茂 教士(左)



▼ 制定刀法“修練留意点”を明確に、模範演武の菅野 茂 教士

## ◆審判講習◆

■審判講習は“座学と実技”に分けて行われ冒頭、講師の中島正夫範士からこの講習会は、抜刀道の修練と同様に人から“おさわる”のではなく“自ら学びとり”自分の“血液・筋肉”を造り上げて支部に持ち帰り、講習の成果を実稽古で実践し修練する処に“価値”があると期待と激励の挨拶があった…。



↑ 効果的な講習会の進め方を協議する◆講師陣◆

←  
我々が“試合・審査”に挑む場合『審判・審査の眼』は何処を見ているか…“具体的”に《刀法所作》の解説を行う中島正夫 範士と模範演武を行う金子翼 範士



- 講習は、下記の手順で進められた。
- ① 座学：“審判要領と要点”の解説
  - ② 制定刀法『審判・審査・試合』に於ける『審判◆審査の“眼”』は、何処か中島正夫講師 解説による、金子翼範士の“真剣試斬”の“模範演武”。
  - ③ 以上① ②を踏まえた、審判実技の実体験学習。講師：太田丈夫 範士  
講師：小杉耐三 範士



▼ うだる暑さの武道館剣道大道場で、真剣に取り組む各支部精鋭選手と“審判・審査の眼”は何処か！…を“力説”する中島正夫 範士



↑ “気剣体一致”…“残心”の刃筋の通った試斬の“範”を示す 金子翼 範士

■ 炎熱猛暑の中、全国から参加した支部代表選手対し講習会の閉会にあたり、金子翼範士より激励と期待の挨拶が、次の様にあつた…。

▼ 酷暑の中、皆様が真摯に講習に取り組まれたことに感謝いたします。本日学習された『制定刀法と審判』の技術を、さらに明日からの稽古・審判練習で練り上げ、また、それらを各地域・各道場の全員に伝達して戴けること、加えてその成果が「選手・審判」ともに大会に反映されることを期待してるとの挨拶があり…、約八時間に亘る『講師陣・参加者』が一体となり取り組んだ真夏の講習会は無事に終了した…。



“激励・期待”の閉会挨拶をする  
次席副会長：金子翼 範士

講師：太田丈夫 範士  
小杉耐三 範士による  
…◆審判《実技指導》◆…

(右から) →  
支部代表公認指導員  
秩父興心会 野口恒夫支部長  
高知興武館 境泰 雅支部長  
福岡 支部 橋岡 一支部長



## ◆特集◆ 【公認指導員研修資料】改定保存版

…平成26年度《制定刀法・審判》伝達講習会…

REVISED：平成26年7月27日

NPO法人 日本抜刀道連盟

## 審判講習 審判要領と要点

連盟会長

大会審判長



本連盟の活動基本理念は「綱領」にて明言しているように、理念のその根底に流れるものは日本古来の伝統を誇る、抜刀道真剣武道の《心・技》であり、日本精神の象徴でもある武道の原点であります。よって本大会の審判は、本連盟「試合・審判規則」に準拠して行い下記に評価の重点を置いた、公平な審判をお願いするものである。

- ① 抜刀道存続の生命線は、稽古・競技中の「安全確保・事故皆無」の重要性を、一人一人が認識し、ただ単に試し斬りのような“斬ることのみに走らず”競技中の『絶対安全の確保』心掛ける。
- ② 日頃の修練の成果をみる“心技”の練度に重点を置く。(教本・大会プロ/競技審判要領を参照)
- ③ そして、総合評価は、試合(競技)の“開始線に始まり…開始線に戻る”までが“判定の評価”の重要な対象となる。

## …大会審判要領… 本連盟(試合・審判規則に準拠)

### ◆心得◆

1. 審判員の判定は“公平無私・厳正明確”でなければならない。このため、審判員は、試合者が自己と同一支部等、直接の指導下にある場合は“交代”するを原則とする。
2. 審判員は、各試合場に“審判主任1名”を置き、他に「主審1名・副審2名」の計3名で行う。
3. 審判主任は、試合開始に先立ち“審判長より審判旗を受理”して“主審”に交付すると共に試合推移を見守り、担当コートでの管理監督を行う。審判旗を受理した主審は、副審に審判旗を渡す。
4. 各会場の審判員は、右手側に(赤旗)・左手側に(白旗)を広げて審判机の上に置き、審判席に着席する。 ㊟ この場合、姿勢を正して、凛々しく椅子に座ることに心掛け、ましては、椅子に寄りかかる姿勢や、机に肘を立ててはならない。

### ◆試合開始◆

1. 主審は、進行係の呼び出しに応じ“赤・白”の選手が控えたのを確認し両選手が相互の礼を終了して試合開始線に入り正面に正対したときに、立ち上がり“赤の選手より演武開始”を宣言する。  
※ 号令は、「赤始め」と発する。
2. 主審は、赤選手の演武が終了し再び開始線に両選手がついたのを確認して立ち上がり“白選手”の演武開始を宣言する。  
※ 号令は、「白始め」と発する。

### ◆審判判定◆

1. 主審は“赤・白”両選手の演武が終了し、両選手が“開始線”に戻った事を確認して立ち上がり「判定」と宣言する。
2. 審判員は、主審の《判定宣言》により、直ちに“紅白旗”によって“判定表示”をする。その《要領》は、赤・白いずれか、勝と思われる選手側の旗を『体側前方45度の角度』に元気よく“一直線”に掲げる。
3. 主審は、旗の表示数によって《勝・負》を宣言する。

## …《審判判定時の留意点》…

修練の成果を発表する“試合・競技”は、真剣な緊張感から大会意義が生まれます。特に審判判定での、主審の《判定宣言》と、審判員が紅白旗により判定表示をする場合は、“元気よく勝敗の宣言”をし“元気よく…メリハリがある”判定旗の上げ下げを行ってほしい。この審判団の凛々しく“的確な判断による判定と態度”から、各会場の緊張感が生まれ選手の心意気と闘魂を高揚させ、各会場が盛り上がりを見せる事でありましょう。

## ◆旗の表示◆

1. 審判員は、下記の方法により“旗の表示”を行う。
  - ① 主審の「判定」宣言により、勝者側の旗を“体側上前方45度”に一直線に上げる。
  - ② 主審の「勝負あり」の宣言と同時に旗を素早く降ろす。

## ◆勝敗宣言◆

1. 主審は、下記の要領で宣言を行う。
  - ① 赤（白）旗3本の場合。「判定・赤（白）の勝ち…勝負あり」と宣言する。
  - ② 主審1名が赤（白）勝ち。副審2名が白（赤）の勝ちを表示した場合。  
主審は“判定”と言った後、赤（白）旗を一旦降ろし、白（赤）旗を上げると同時に…「白（赤）の勝ち…勝負あり」と宣言する。
2. 不戦勝の宣言は、主審は、選手が試合開始線に位置したとき、  
赤または、白の旗を上げて「不戦勝勝ち…勝負あり」宣言する。

## ◆旗の返納◆

1. 主審は、試合・競技が全部終了した時点で、当該副審から“審判旗”を受け、審判主任に返納する。そして、審判主任から審判長に返納する。

### 審判規則 第3条 【試合中止&合議】

審判員は、選手に負傷、事故および反則があり、または、試合中の選手より“中止の要請”があつて試合を中止させる場合は、下記による。

#### ◆【審判旗の表示】◆

1. 審判員は、起立し赤と白の“両旗を同時”に、体側に沿って真上に上げ“中止”を宣言する。
2. 選手は「中止」の宣言があつた場合、その場で演武を止めて、審判員の指示を待つ。
3. 審判員は「中止」の要請または“宣言”があつた場合は、合議して結論を出し必要に応じて主審から関係者に伝達しなければならない。

## ◆合 議◆

1. 上記、審判規則3条に定められた通り「中止」の要請があつたとき。
2. 試合規則第7条に定められた反則行為があつたとき。

#### 【第7条：反則】

- ① 対戦相手、又は審判に対して著しく非礼な行為（人格を無視する様な行為・言動）があつた場合。
- ② 日本武道の修行者として、あるまじき行為・言動があつた場合。
- ③ その他、試合の公正を害すると思われる行為があつた場合。

#### ◆【第8条：罰則】◆

- ① 反則行為があつた場合は、審判員が合議の上、反則した者を“負”として、退場を命ずる。
- ② 反則行為により、退場を命じられた者の既得権は認めない。

#### ◆【審判旗の表示】◆

3. 上記以外でも、審判員の合議が必要と判断した時は、審判員は起立し口頭で「合議」と発声し、紅白の両旗を右手に持ち、体側に沿って真上に上げる。
4. 合議の結果は、必要に応じ、主審から関係者に伝達しなければならない。

その他 ◆ 第5条 ◆ 審判規則に定めて無いことについては“審判員が合議”してその結果を“審判長”に報告し、審判長の裁定により処理する。

以上。

## ◆特集◆ 制定刀法《審判・審査・試合》実技判定要点

平成26年度

『制定刀法◆審判』伝達講習会

【研修自己啓発資料】

### “審判・審査の眼”

REVISED：平成26年7月27日  
連盟 大会審判長



- 1 本目 ● 間合いを詰め（右足）から右斜め前に踏み込んで体を躲して（左面）を斬っているか。  
◇ 袈裟血振りをしているか。
- 2 本目 ● 間合いを詰め（左足）を一步踏み出しながら表鑓で、相手の刀を（左）に払い上げているか。  
◇ 右足を右斜め前に踏み込んで、体を躲して（左袈裟）に斬り下ろしているか。  
◇ この時（四股立ち）になっているか。
- 3 本目 ● 間合いを詰め（右足）から送り足で一步踏み出しながら裏鑓で、相手の刀を（右）に払い上げているか。  
◇ 左足を一步踏み込んで（右小手）を斬り落としているか。
- 4 本目 ● 間合いを詰めて気攻めし、正面に切り込んでくる相手の刀を、左足を一步踏み出しながら表鑓で摺り上げているか。  
◇ 右足から右斜め前に踏み込んで（左面）を斬っているか。  
◇ 刀を返して（左足）を踏み込んで右袈裟に斬り下ろしているか。  
◇ この時（四股立ち）になっているか。
- 5 本目 ● 間合いを詰めて気攻めし、正面に切り込んでくる相手の刀を、右足から送り足で一步踏み出しながら裏鑓で摺り上げているか。  
◇ 左足から左斜め前に踏み込んで（右面）を斬っているか。  
◇ 刀を返して（右足）を踏み込んで左袈裟に斬り下ろしているか。  
◇ この時（四股立ち）になっているか。
- 6 本目 ● 間合いを詰め、左足を一步踏み出しながら、表鑓で相手の刀を（左）に払い上げているか。  
◇ 右足を右斜め前に踏み込んで体を躲して（左袈裟）に斬り下ろしているか。  
◇ 刀を止める事なく、刀を返し（右足）を踏み込み（右胸）を水平に斬り抜いているか。  
◇ この時（左足）を返しているか。
- 7 本目 ● 間合いを詰め、右足から送り足で一步踏み出しながら、裏鑓で相手の刀を（右）に払い上げているか。  
◇ その後、左足を踏み出しながら、左脇構えとなり、（右足）を右斜め前に踏み込んで（逆袈裟）に斬り上げているか。  
◇ 刀を止める事なく、刀を返して（左袈裟）に斬り下ろしているか。  
◇ この時（四股立ち）になっているか。
- 8 本目 ● 位置を一步（左）にずらして立っているか…。間合いに入り、相手を見ながら（左足）を踏み出すと同時に抜刀し、（右足）から踏み込んで（右頸部）を斬っているか。  
◇ 間を置くことなく、諸手で（水月）を突いているか。  
◇ その後、ただちに、（左足）から一步退くと同時に、突いた刀を引き抜いているか。  
◇ 袈裟血振りをしているか。
- 9 本目 ● 間合いに入り、左足を踏み出すとともに抜刀し、（右足）から前に踏み込んで片手抜き打ちに、相手の（右面）を斬っているか。  
◇ 刀を返して（右足）を踏み込んで（左袈裟）に斬り下ろしているか。  
◇ 刀を止めることなく、（右胸）を水平に斬り抜いているか。  
◇ この時（左足）を返しているか。
- 10 本目 ● 間合いに入り、左足を踏み出すとともに鞘を返しながら抜刀し、（右足）から前に踏み込むと同時に、（片手逆袈裟）に斬り上げているか。  
◇ 刀を返して（右足）を踏み込んで（左袈裟）に斬り下ろしているか。  
◇ 刀を止めることなく、（右胸）を水平に斬り抜いているか。  
◇ この時（左足）を返しているか。

以上

## …土佐の武人… ◆特別寄稿◆ 樋口 功 先生逝く



副会長  
中世古 勝司

平成二十六年六月三十日、NPO法人日本抜刀道連盟に精通して居り連盟発展のために多大なる功績がありました。

また、外国豪華船が高知港に入港する度に高知城において抜刀道の演武を支部全員で行って居りました。私も旅行で高知港に寄港した折り、高知城下で呑ながら武道の事など語り合いました。その時に私に託した歌がありますのでご紹介いたします。  
「男じやないか胸を張れ、万策つきても倒れるとも天あり地あり未来あり君をあげたまえ、いざわが友よまずは一献」  
心の通った剣友を亡くして誠に残念です。ご冥福をお祈りいたします。

## ◆広報◆ 編集…後記

- ▼ 会報33号は、平成26年度『制定刀法・審判伝達講習会』を特集し7枚に纏めた。お気づきの方がおられたかと思いますが…、前号の《会報32号》はよく見ると、活字がかすれて、印字が飛び一部みずらくなっていた事に気づく…。
- ▼ 1頁の会報原稿の完成までには“規定枠への活字合わせ”と全体のバランスの微調整に“約50枚”近くの、コピーを行い調整する粘り強さと“気配り・陰の苦勞”…そして“時間”が、その陰に隠されている。
- ▼ 実は、打って、打って打ちまくった、“ワープロの印字ヘッド”が、ついに摩耗し…、活字が…かすれてきた状況下で、何とか前回は“発刊”にこぎつけた苦い経緯がある…。
- ▼ 今回の《会報33号》は、どのような理由があろうとも、広報責務上《会報休刊》だけは避けなければならず、この炎熱猛暑の中、中古からの部品取り“修理方法”を発案。《同型式の中古ワープロ》を、探し求めて『秋葉原・渋谷・新宿・池袋・日暮里・上野・横浜』と、“中古扱い電気店”を、山手線の様に探し回って歩いたが条件に合わず結果として無駄足で“ダメ”だった。
- ▼ 一方、インターネットオークションで、山口県の修理店を初め全国を検索。やっとの事で、印字機能部品《型式・部品番号》の“中古廃棄ワープロ”を探し出し手に入れた。
- ▼ 早速メーカーの技術部門に直接持ち込み、連盟として《会報発刊の必要性》を訴え、持参した“廃棄ワープロ”の印字機能部品は“使用可能と判断”される事を伝え、印字機能部品を取り外して活用する《中島方式…部品取り修理》を特別注文し依頼した。
- ▼ その結果《会報33号》の、印字機能は見事復活し会員諸兄に会報が届けられる事となった。
- ▼ 私にとって…会員諸兄の為の《会報発刊》は、責務上“抜刀道”の修練同様に正に“真剣勝負”なのである…。



本部  
広報部長  
中島 正夫



## …◆訃報◆…

謹んでお悔やみを申し上げますと共に  
在りし日のお元氣なお姿を偲び  
心からご冥福をお祈りします…

NPO法人 日本抜刀道連盟  
会長 大江 正男・役員一同



高知 興武館々長  
樋口 功(享年七歳)  
2014.6.30(逝)



埼玉尚武館支部長  
富田 憲介(享年六八歳)  
2014.07.07(逝)

## ◆お人柄紹介◆

- ◆ 所属支部 ◆ 高知 興武館。
- ◆ 武道歴 ◆  
※ …抜刀道 六段…  
NPO法人 日本抜刀道連盟。  
※ 合気道五段 關法人合気会。  
※ 居合道五段  
高知剣道連盟。
- ◆ 生涯学習と趣味 ◆  
※ 日本神道と日本刀剣学の探求・収集。
- ◆ 武道修練の目標 ◆  
※ “神道一道”を目指す…。  
武は神にして経綸を司る。神道も武道も縦の道なり。術なき道は空論にして、道なき術は危険である。
- ◆ 座右の銘 ◆  
※ “心配するな！何とかなる” 一休禅師  
※ “慌てたって間に合うかい” 頭山満翁



境 泰雅(65歳)  
高知興武館支部長

高知県の中央部土佐湾に面する県庁所在地。江戸時代は土佐藩の城下町。維新では明日の日本の黎明を求め世界に目を向けさせ活躍した武人「坂本龍馬」の生誕地である高知市で、故・樋口 功興武館々長と共に境 泰雅支部長の指導で抜刀道の普及発展の為に修練を積み活躍する『高知興武館支部』がある。

連盟全国大会団体戦・段位別個人戦では、過去に何回もの栄冠を獲得する武人そろいの気骨ある支部である。

当時の龍馬は、江戸に出て「北辰一刀流」を千葉道場で学び修練した達人と聞か、正に土佐武人の気骨を継承する、人格円満・温厚なお人柄で文武両道の道に挑戦する…「現代の武人」境 泰雅支部長の雄姿と、そのお人柄をご紹介します…。

(広報部)